

令和4年度 飛鳥資料館冬期企画展「飛鳥の考古学2022」

新型コロナウイルス感染症の影響は、寄せては返す波のように、何度も拡大と縮小を繰り返しています。飛鳥資料館においても、苦渋の決断として臨時休館を決めた時期もありました。そのような状況下でも、飛鳥では各研究機関の地道な努力により発掘調査が続けられています。飛鳥では飛鳥京跡苑池の調査が一段落し、甘樫丘遺跡群の調査も始まっています。大官大寺南方や石神遺跡の調査も継続中です。藤原京域では藤原宮大極殿院北部の様相が解明されつつあり、藤原京右京五・六条八・九坊、慈明寺遺跡、四条シナノ遺跡の調査は一区切りを迎えました。このほかにも、飛鳥地域から出土した遺物に関する最新の調査研究の成果もあわせてご紹介します。この冬は飛鳥資料館で最新の調査研究成果に触れてみてはいかがでしょうか。

(飛鳥資料館 清野 陽一)

会 期：2023年1月20日(金)～3月12日(日)

開館時間：9：00～16：30(入館は16：00まで)／休館日：月曜日 ※2月5日(日)は無料入館日

主 催：飛鳥資料館・奈良県立橿原考古学研究所・明日香村教育委員会

後 援：文化庁、近畿日本鉄道株式会社

ホームページ：<https://www.nabunken.go.jp/asuka/> お問い合わせ：☎0744-54-3561



平城宮跡資料館 展示紹介「東大溝(SD2700)発掘風景 ジオラマ」

平城宮跡資料館のガイダンスコーナーでは、発掘風景を再現したジオラマを常設展示しています。このジオラマは1987年に作成されたもので、東大溝と呼ばれる平城宮内の排水路での発掘調査を題材にしています。現在は「遷都」、「発掘」、「実測」、「整備」の4場面をみることができます。「遷都」の場面では長岡京への遷都を前に建物の柱を抜き、瓦を運び出して建物の解体をする様子、「発掘」の場面では発掘調査が始まり、作業員たちが出土した遺物を取り分けながら鍬やスコップを使って地面を掘り下げる様子……と、ジオラマの景色が移り変わっていくのを楽しみながら、時代によって姿を変える平城宮跡と発掘調査の歴史に思いをはせていただければ幸いです。

(企画調整部 下山 千尋)



開館時間：9：00～16：30(入館は16：00まで) 入館無料／休館日：月曜日(休日の場合は翌平日)

ホームページ：<https://www.nabunken.go.jp/heiho/museum/> お問い合わせ：☎0742-30-6753(連携推進課)

■ お知らせ

シンポジウム

早川泰弘東京文化財研究所副所長・高妻洋成奈良文化財研究所副所長 退任記念シンポジウム
令和5年3月4日(土) 於：東京文化財研究所 地下セミナー室
(YouTubeによる同時配信を予定)

藤原宮跡資料室 ロビー展示

11月1日(火)～3月31日(金)(予定) 「2021年飛鳥・藤原地区発掘調査速報展」

■ 記 録

文化財担当者研修

○遺跡調査技術課程	
9月12日～9月16日	33名
○層序学・堆積学・土壌学基礎課程	
9月26日～9月30日	23名
○保存科学(材質・構造調査)課程	
10月11日～10月14日	7名
○保存科学(遺構・石造文化財)課程	
10月17日～10月21日	8名
○中・近世瓦調査課程	
11月9日～11月11日	19名
○文化財写真課程	
11月21日～12月2日	10名

平城宮跡資料館 令和4年度 秋期特別展

「地下の正倉院展－平城木簡年代記〔クロニクル〕－」

10月15日(土)～11月13日(日) 7,628名

現地説明会

平城第649次調査(興福寺東金堂院)

10月15日(土) 1,120名

第14回東京講演会

10月22日(土) 178名

編集 「奈文研ニュース」編集委員会
発行 奈良文化財研究所 <https://www.nabunken.go.jp>
Eメール koho_nabunken@nich.go.jp
発行年月 2022年12月



詳細はこちら